

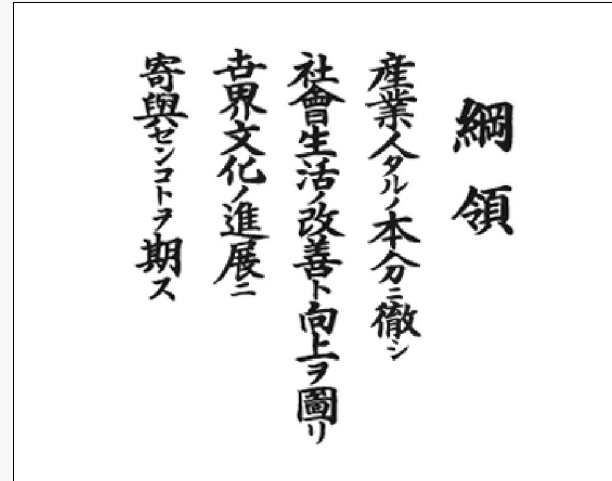
サステナビリティの考え方

私たちの考える サステナビリティ経営

生産・販売活動を通じて、社会生活の改善と向上を図り、世界文化の進展に寄与すること。パナソニックグループ「綱領」(右図)には、事業を通じて世界の人々の生活をより豊かでより幸福なものにするという、パナソニックグループの事業の目的とその存在の理由が簡潔に示されています。

パナソニックグループには、「企業は社会の公器である」という基本的な考え方があります。企業にとっての人材、資金、物資など、あらゆる経営資源は、すべて社会が生み出したものです。企業は、こうした資源を社会から預かり事業活動を行っている以上、社会と共に発展し、その活動は透明で公明正大なものでなければならないと考えます。

私たちパナソニックグループは、あらゆる面で、「社会の公器」にふさわしい経営や行動を心がけ、これからも本業である事業を通して、物と心が共に豊かな理想の社会の実現を目指してまいります。そして、その使命達成に向けた基本的な考え方である「経営基本方針」を実践していくことが、私たちパナソニックグループのサステナビリティ経営そのものです。社会、経済、地球環境など、あらゆる面で大きな転換期にある今日、パナソニックグループはこれからも世界中でサステナビリティ経営を徹底し、明日のライフスタイルを提案し続けながら、地球の未来と社会の発展に貢献していきます。



松下幸之助 著「実践経営哲学」

1978年6月発行より



「“企業の社会的責任”ということが言われるが、その内容はその時々
の社会情勢に応じて多岐にわたるとしても、基本の社会的責任というのは、
どういう時代にあっても、この本来の事業を通じて生活の向上に貢献する
ということだといえよう。

こうした使命観というものを根底に、一切の事業活動が営まれることが
きわめて大切なのである。」

創業者

松下幸之助